

## 年報第2号の刊行によせて

岡 本 包 治

(日本生涯教育学会会長)  
(立教大学教授)

日本生涯教育学会は、1980年(昨年)に学会年報第1号『生涯教育の展開』を世に問い、今、学会年報第2号『生涯教育体系の構想』を公にするに至ったのである。

本学会はその誕生以来、地道な活動を展開し、研究と実践の積み上げの中から、いよいよ生涯教育はその体系化の段階に入ったとの認識を持つものである。これを言い換えれば、あらゆる領域、あらゆるレベルにおける生涯教育の体系化に着手する責任を社会から要請されているといってもよい。

このような情勢の中で、我々は生涯教育体系の具体像をさまざまな角度から検討し、現実化を図ったのである。

まず本書では、生涯教育の体系が地域社会の次元でどうなっているのか、さらには人間の各発達段階ではいかにあるべきなのか、そしてとりわけ女性の課題としてはどうなのかを探究している。

また生涯教育の体系化は、学校とその教育の実態に何らかの変革を迫らずには実現しえない。生涯教育の出発点としての学校とは何なのか、学校特に大学の開放にどう取り組むのかなど学校教育をめぐる基本的な視点とその現実の胎動について本書は一定の見通しを示しているはずである。

ところで、いうまでもなく体系的な生涯教育の成立には、成人の学習とその制度樹立への挑戦が不可避な前提である。生涯教育としての成人教育を支える科学の確立を図ることが必須にして緊急な課題であるといわざるをえない。今、我々は、これを成人の学習可能性を明らかにするという基礎的研究

及び働く人たちの生涯設計につながる職場における諸学習活動を具体的に整理する実践的研究の両極からとらえたのである。そして、外国における成人教育制度からも多くのものを得たく思っているのである。

ともあれ、生涯教育を体系化するという研究は、以上に取り上げた領域や事象に包み込まれるものではない。もっと広い内実を要請されるものである。したがって、本学会は、現時点において生み出しえた果実を一里塚として、今後永続的な努力を約束するものである。

また特に、全国に活躍されている本学会メンバーをはじめ、関係各位の主體的な共同活動のもと、理念や理論倒れにならない研究の体質というものを恒常化して、生涯教育の実態を常に踏まえながら、その中から将来への志向性を探り出す姿勢の所産として、生涯教育の全体系の実像を創出したいものである。

そしてさらに、このことによって生涯教育の主体者である一人一人の学習者が理解しやすい生涯教育、いつでもどこでも学ぶ意欲を起こし、取り組みやすい生涯教育とは何なのかを明確に提示することを最終の目標としたいものである。

なお、本学会年報では、本巻から生涯教育に関する各方面にわたる資料や文献を所収することにした。この作業は、今後とも本学会の永続的な仕事として位置づけるつもりである。こと生涯教育に縁を持つ研究者・実践家・各行政関係者のすべての人たちに大いに活用していただきたいという願いにほかならない。

最後になったが、本学会年報第2号の誕生に惜しみなき支援を下された(株)ぎょうせいへ、改めて心からお礼を申しあげたい。